教育学・心理学

key word

- 文化
- 集団行動
- 規範

竹村　幸祐
Kosuke Takemura

経済学部
教授

【プロフィール】
・専門分野：
社会心理学
文化心理学
進化心理学
・略歴：
北海道大学大学院文学研究科（博士（文学））
ブリティッシュ・コロンビア大学、京都大学（こころの未来研究センターおよび経営管理大学院）を経て現職

【主な社会的活動】
各地の農業普及指導員の研修などで講師を担当

【主な著作】
・『農をつなぐ仕事：普及指導員とコミュニティへの社会心理学的アプローチ』創森社（共著者：内田由紀子）
・「文化への社会生態学的アプローチ」（山岸俊男編著『文化を実験する：社会行動の文化・制度的基盤』勁草書房の第４章）（共著者：結城雅樹）
・Being different leads to being connected: On the adaptive function of uniqueness in "open" societies. (Journal of Cross-Cultural Psychology, Vol. 45, pp. 1579-1593)

【代表的な研究テーマ】

□ 社会と文化の心理学

課題解決に役立つシーズの説明

「社会心理学」と呼ばれる分野を専門としています。人間が集まると、思わぬ事態が生じることがあります。一人ひとりは大人しい性格の人々が、群衆として集まった時に思いのほか暴力的に振る舞うケースなどは、その例です。「集まる」ことで生じる様々な現象をとらえる上で、役に立つ視点・考え方を提供することを目指して研究しています。また、以下にもう少し詳しく述べるように、「文化の違い」についても研究しており、多様な文化的背景を持つ人々が交流する際に、無用の軋轢が生じずにすむ道を探しています。

まず、社会心理学とは、人間が他者と関わる際にどのような心理・行動を示すか、それを明らかにしようとする学問分野です。扱われる心理・行動は多岐に渡ります。よく研究されているものに、例えば、「信頼」があります。また、「協力行動」も社会心理学の重要な研究対象です。「差別」や「偏見」も然りです。

私の場合は、「文化」が研究のキーワードとなります。ここでいう「文化」には、例えば、慣習や常識のようなものが含まれます。こうした慣習や常識は、誰か一人が作り出すものではなく、同じ社会に住む人々がみんなで作り出し、維持していくものです。そして、そうした慣習や常識は、社会によって大きく異なります。初対面の人の前ではまず謙遜して見せるのが常識でマナーとなっている社会もあれば、むしろ自信があることを示す必要がある社会もあります。数え上げればきりがありませんが、こうした「文化の違い」が、人間の心理・行動に及ぼす影響について研究しています。

私自身が取り組んできた研究のひとつが、「恥」の感じやすさの違いについてです。日本はよく「恥の文化」だとされます。私たちの研究でも、日本人は、アメリカ人やイギリス人に比べて、恥を感じやすいことが明らかになりました。しかし、それは何故なのでしょうか。私たちの研究で示されたひとつの可能性は、日々の生活の中で「新しい人間関係を作るチャンス」が日本では少ないために、日本に住む人々は恥を感じやすい、ということでした。新しい人間関係（例えば友人関係）を作るのが日本では容易でないため、今の人間関係から排除されないように行動することが、とりわけ大事になります。ちょっとしたことでも恥を感じ、自分の行動をその場に合わせて調整する傾向は、そうした社会でうまく生きていく上で役に立っているのではないか、という可能性です。

こうした考え方に立つとき、「ある国でこの考え方がうまくいっているから、それを日本にも輸入しよう」と安易に考えることが、時に危険であることが浮かび上がります。ある考え方がうまくいくためには、その土台となる条件（例えば、新しい人間関係を作るチャンスの多さ）が備わっている必要があります。また、自分と異なる文化的背景を持つ人が、自分と違う考え方・心理傾向を持つ時に、単に「違う」と拒否するのではなく、違う理由を理解できるようになります。

また近年では、国による文化の違いだけでなく、農村の文化や漁村の文化などにも注目しております。各地域コミュニティにはそのコミュニティの文化があり、そうした文化が住民の様々な意思決定に影響していると考えています。人間の心理・行動は、それを取り囲む社会や文化から切っても切れない関係にあり、その複雑なメカニズムを包括的に捉えるための研究を進めていきたいと考えています。

企業・自治体へのメッセージ

企業・組織にも、それぞれの「文化」や「風土」があると思います。また、地域社会・コミュニティの場合も、それぞれの地域・コミュニティに固有の「文化」や「風土」があると思います。そうした特徴を捉えるためのアンケート調査なども行っています。